



園長だより NO104

台風、大雨、線状降水帯、昨今の自然事象の勢いは年々増えています。地球温暖化、二酸化炭素の排出等々環境問題は地球レベルで取り組んでいるものの未来に明るい兆しがみえていません。

夏の過ごし方にもここ数年で変化がみられました。この季節は解放感に浸り、おひさまの日差しを浴びながら水や土と戯れ、自然との対話の中で子ども達は元気な身体と感性を育んできたのですが気温の上昇、熱中症への警戒や対応で戸外遊びはできない日々が続きました。室内中心の保育になっていますがそれぞれの保育士の工夫で室内でも心地よく過ごせる(遊びに没頭する)ように取り組んでいます。

子どもまんなか社会

子どもまんなか社会、聞きなれない言葉がありますが時折、メディアでとり上げられる程度で社会の中(保育の中、特に現場)では浸透していないのが現状です。

一昨年(2023)の暮れ、子どもの育ちにかかわる国の重要な施策が閣議決定されました、こども家庭庁を中心として大きな動きがありました。

私もその内容を十分と理解しているわけではありません。「こども基本法」「こども大綱」「こども未来戦略」の策定、子ども達のより良く育つため、社会のすべての子ども達と保護

者を支える施策といえるものでしょうか、施策の基本は「こども基本法」において整理されてきた幾つものビジョンということになります。

保育現場は時折、その動向や情報がいのあるものの検討会議などは有識者などで構成され現場の意見が十分に反映されている実感はありません。でも国の将来、子どもの未来を考えての策であることを理解の念頭に置かなくてはなりません。

その中で幼児期までのこどもの育ちに関わる基本的ビジョンでは「はじめての100か月の育ちのビジョン」が作られました。

冒頭では「こどもが小学校に入るまでに重要な時期に一人一人が健やかに育つことができるように、みなさんに大切にしてほしい考え方をまとめました。」と訴えはじまっています。はじめの100か月とはお母さんが妊娠しいてから小学校1年生の途中位をさします。

はじめの「100か月」は人生を幸せな状態で過ごすため、特に大切な時期です。しかし、すべてのこどもが等しく、健やかに育つことができるのかについて課題があります。

生まれてから、家庭、保育園、小学校、地域、行政、諸々の関係機関、つながっていきそうに切れ目がある。そんな社会を変え、社会全体でこどもの育ちを支え、共通した考え方を広げていこうとする試みです。

100か月とはおおむね保育園から小学校へ接続した期間であることから、保育園の役割

は重要であると考えています。保育園や小学校、各関係機関との垣根を取り払い交流、情報の共有、具体的な協力体制も構築されつつあり、その施設単体で子どもを育てることではなく多角的に保育や育児の参加が行われるようになってきている。

こどもの権利と尊厳を守る

切れ目なく子どもを育てる他、世界各国ではこどもの権利(人権)について進んでとりくんでいる。子どもの権利条約なるものがあり(児童の権利に関する条約)日本は世界で158番目に批准(締結)※国連で平成元年に採決され日本は平成6年に批准

子どもの権利を守る先進国からはだいぶ遅れをとっています。昨今はこどもの権利、人権を守り、尊重しようとする機運が高まってきました。100か月の育ちのビジョンではこども基本法を踏まえて権利や尊厳を守ること掲げています。

- ・乳幼児は生まれながらに権利をもっている
- ・乳幼児の生命や生活を保障する
- ・乳幼児の思いや願いを尊重する。

すべての乳幼児が大切に育てられ、どんな環境下にあっても命・健康衣食住などが守られている乳幼児は、言葉だけでなく、様々な形や思いを表現、ひとり、ひとりのペースに応じて、それらが尊重されている。

その昔、乳児、生まれたての子どもは無能であ

ると認識されていた時代があり、言葉は話せない歩行はできない、生活行為すべてにおいて施し世話してあげなくてはならないと言われていた。今は無能とは言うてはいけない、有能なのです。生まれたて、いやおなかの中にいる時からしっかりと、脈々と生きている存在であり、自己の主張や思考を働かせている存在と私は考えます。

おなかにいる赤ちゃんはお母さんから酸素をいただく。おなかの中では殆どの時間眠っていると言われるが赤ちゃんはよく考えている、本能的なのかもしれないが日中、お母さんは家事などで動き酸素を必要とする。お母さんに負担をかけないよう日中は寝る。お母さんが眠った夜に負担をかけぬように起きてくる。そんな仕組みがあるとされている。科学が進み、エコーで胎児の表情まで映し出させる、心地よい感情の表情、指しゃぶり瞬き、微笑みにも見える表情、すでに人として存在している。人として存在しているからには当然、胎児にも乳幼児にも生きていくための、よりよい育ちや生活を送る権利もあり、自己を表明する権利もあるということになる。

子どもの成長、発達には豊かな遊びや体験が必要であることは言うまでもありませんが日々の生活の中でひとり、一人の子ども達の思いに心を寄せていける大人の存在が「子どもまんなか社会」実現の重要なキーになります。

※参考 幼児期までのこどもの育ちに関わる基本ビジョン (おおぞら保育園 園長 廣部信隆)

